

さみしい夜の句会報 第128号 (2023. 7. 30-2023. 8. 6)

- ◆ 参加者：雪上牡丹餅、しまねこくん、sepe、星野響、海馬、石原とつき、くみくみ、菊池洋勝、ゆう（かつし）、まつりぺきん、水の眠り、何となく短歌、ひうま、徳道かつみ、Migwort、syusyū、西脇祥貴、あやめ、かのん、もん、Tate、元さん、小沢史、岩瀬百、おかもとも、花野玖、西沢葉火、さー、みさきゆう、雷（らい）、短歌初心者、太代祐一、石川聡、輪井ゆう、萩原アオイ、月硝子、モリマサ公、燕雀之心、高良俊礼、やは、えみ、ダリア20、はさ、温（ぬ）、片羽 aiji、雲雀、上崎、白石ボピー、りゅうせん、佐竹紫田、涼閑、むくみんママ、萬果、Bon Slipper(モンモン)、東(ひょう)、奥(かすみ)、蜜蔭一郎、凧ちひろ、しろうとも、森砂季、もふもふ、赤端、独楽男、雪うさぎ、なゆた、さー、はゆき咲くら、碧乃そら、砂原妙々、とるぼーる、岡村知昭、鴨川ねぎ、かきもちり、鷺沼くぬぎ、一橋悠実、kaorin、うちさめ、相馬絵梨子、月波与生(七九色)

◆ 7・7、5・7・5 (川柳・俳句)

- 励ましてくれる舌平目がほしい 岡村知昭  
八月の胃が飾られるギフトショー ひうま  
空き缶の中から男を見送った おかもともかも  
むしろ自覚しかないクロワッサン 海馬  
石鹼と陰毛によるパート主婦 西沢葉火  
対岸と時差があるのね、百日紅 上崎  
ナイターに背を向けながら帰路につく 水の眠り  
百歩譲つても生八ッ橋止まり りゅうせん  
白鷺の伸縮性は夜に似て 白石ボピー  
形而下の穴に落とした塩むすび まつりぺきん  
あめんぼうかれの破滅を望んでる ダリア 220

源氏名が思い浮かばぬ柳かな モリマサ公  
素麵を往復させる間柄 しまねこくん  
暮れるとも駱駝の瘤にある西日 しまねこくん  
微笑みの人に聞こえぬうたがある 輪井ゆう  
食べられる粘土でつくる最後の晚餐 海馬  
海沿いの付箋が特に売れやすい 太代祐一  
急に蟬が鳴き止んだあとの脈拍 雷(らい)  
あの夏も中華鍋なら仕方ない おかもとかも  
クレームを棒でこねたらどうかしら おかもとかも  
箱庭へ点滴の管下りてくる 小沢史  
アルパカの首で深夜のマックまで 海馬  
「ちび」で始まるぐつぐつネーム 海馬  
追いついてきなよ小銭をこぼすから 海馬  
河骨と右手が月に濡れてゐる 雪うさぎ

戦争だ用意しました西瓜砲 雪上牡丹餅  
祝報の増殖やまぬ熱帯夜 星野響

希塩酸の十三番目なイライラをすつびん 石原とつき

年寄の首擡げたる月下美人 菊池洋勝

面倒な穴は塞いで眠りますかしくらゆう

ひまわりが証人である原爆忌 徳道かづみ

丸天井すぐ影の濃し原爆忌 mugwort

洗ひものかたし泣きたや夕顔と syusyu

チャウチャウが二頭で Nevertheless, I beloved 西脇祥

貴

夏の旅 ひとりのカフェも 目的地 かのん

絵に描いたような大用歯磨き粉 もん

わたしの傘だけやたらはためく 岩瀬百

あさきゆめ蒲の穂絮の床に入り 花野玖

藍浴衣傍目ばかりに涼を呼び 月硝子

感情が言葉を過ぎる頃に雨 高良俊礼

19時半の終わった世界 やは

ぐちやぐちやも紛る忘らる蟬時雨 片羽雲雀

ちぎれ雲千切れたままの夏ま昼 涼閑

iPhoneを情けない程日に当てる もん

さみしくて今夜の三日月は嫌い 東三ころ

日本地図今日のラジオの場所はどこ さー

運動は原則中止みなみかぜ 蔭一郎

ゆうべごとファンデーションで塗りつぶす しろとも

生煮えのセミを見届けへいへいへい 森砂季

二度とない夏ヤングケアラーに捧ぐ もふもふ

藪分けて山百合夜の暑に開き 赤端 独楽男

熱が去る夜の隙間を猫が去る 砂原妙々

夏の雲母を見舞った帰り道 とるぼどーる

千乾びた僕の心に除草剤 鴨川ねぎ

踏切の赤と鼻緒の疼くとき みさきゆう

相席もいいね東京ロマンチカ 月波与生

◆ 5・7・5・7・7 (短歌)

病室にトリコロールの夏の雪ほっかり浮かぶ鯨の雲と み

さきゆう

信じてるふりつて大事かろうじて紡いだ糸を切らないよう

に みさきゆう

幸せでなくてもいいよ、探すのも疲れるでしょう？ご飯は

食べた？ みさきゆう

矢のように過ぎ去るばかりの毎日をスピードガンで日々計

測す 何となく短歌

選択を全て間違え来たようなそんな気分の夜の入り口

Take

ん？って訊く時だけ少し近くなる 自習室には冷静が住む  
奥 かすみ

弁当箸忘れ箸のためカップラ買う瞬間に身を灼く太宰治感  
石川聡

ざらついた床が腿うらはりついて額縁の海夏の雪かな 水  
の眠り

靴の中で泳ぐ指濡れたデニム 日傘じゃ凌げない雨が降る

salzi

風死して禁げた裾の薔薇こぼす他人行儀な窓辺の天使 あ

やめ

水しぶき南の風で踊る波夏が描いた海のイラスト 元さん  
混みすぎてなんも買えずにマック行き下駄を脱ぎつつハッ

ピーセット さー

ゴミ箱に捨てた卒業アルバムの中には君の写真もあった  
短歌初心者

愛を訊くの歳児に言う「だいすきの、もつとすきよ」と桃  
を剥きつつ 萩原アオイ

生きることが走り続けることなら 方向ぐらい自由でもい  
い 燕雀之心

酔ってする深夜の散歩きっかけに零れる言葉とてもまつす  
ぐ えみ

嬉しくてああ嬉しくて最期には染められていく夕風の君  
ばさ

その声に見える光の儚さにこの瞬間の愛しさを知る 佐竹

紫田

思い出は今日も美化され育ちつつ心の中を蝕む 萬某  
ペランダで上がる花火を眺めつつ夏の終わりが遅れて届く

比島アルト

愛して香箱坐りの猫に言う百年たったら迎えにくるわ  
蜜

夏だから走り続けるしかないね受験も育児も天王山 凧ち  
ひろ  
夜の真ん中であの日の船で寝ている音がする むくみんな  
マ  
短夜の 明けたしとねに 脱ぎ捨ててゆく 未練未練の 恋衣  
なゆた  
久方の煌めく華に腕ふるい卓を彩る母の姿よ はゆさく  
誰の目に留まらなくてもここにいる 僕の咲かせた茉莉花  
が香る 碧乃そら

◆詩

他愛もない話しや

胸のうち

話せたら楽やろな。

もう疲れちゃったよ。(温(こ)い)

◆作品評から

病室にトリコロールの夏の雪ぽっかり浮かぶ鯨の雲と み  
さきゆう

〜トリコロールの夏の雪…!病室というところから理容  
師のサインポールの由来(動脈、静脈、包帯)を思い出し  
ました。色彩の豊かさとは裏腹に、雲への視点の移動、そ  
の雲の大きさ、「ぽっかり」という言葉から何かしらの大き  
な喪失を感じました。(かきもちり)

ざらついた床が腿うらはりついて額縁の海夏の雪かな 水  
の眠り

〜座り込んで海を眺めているのでしょうか。汗ばんだ腿

裏に張り付く砂と夏の雪のリンク、額縁の海、という語が印象的です。夏といえば賑わうはずの海に、冬のような静かさを覚えます…。

素敵な歌をありがとつぎいます (かきもちり)

「ちび」で始まるぐつぐつネーム 海馬

〜ぐつ ↑このキャラすごい気に入られたんですね…

…。(西脇祥貴)

暮れるとも駱駝の瘤にある西日 しまねこくん

〜フタコブラクダなら月も入れられますね〜

月は後に日は前に…。(鷺沼くぬぎ)

追いついてきなよ小銭をこぼすから 海馬

〜瞬時に、テレビアニメ「忍たま乱太郎」のきり丸を思い出しました。お金に目がないきり丸。追いついてきなよ」と言わなくても、小銭のこぼす音を聞いただけで「コゼニ、コゼニ〜！」と飛んで来ます。(一橋悠実)

満たされぬ花瓶の割れてきみの目の沖にヨットが一艘浮かぶ

蔭一郎

〜「きみの目の沖にヨットが…」の(カ)は「Look for the girl with the sun in her eyes And she's gone」が聴(こ)えてきた。LSD。(月波与生)

忘れた頃にほのぼのしてやろう 海馬

〜少子高齢化で「ほのぼの感」が減ってしまった。大人ばかり(老人だらけ)になって椅子取りゲームが終わらない。たまには西岸良平でも読んでほのぼのしてやろう。

(月波与生)

嬉しくてああ嬉しくて最期には染められていく夕風の君  
ばさ

〜返歌をありがとうございます。

「最期には」が好きです。主体と「君」の存在が切なくも嬉しく感じます。(みさきゆう)

形而下の穴に落とした塩むすび まつりぺきん

〜おむすびころりんがモチーフなかなと思いました。

形而上の穴に落ちたおむすびについて考えてみたんですが、抽象的な存在になって見えないのに、落ちることはできている事に気づきました。重さがある、ということはまだギリギリ持つ事はできるのかもしれない。そして持てる、ということとは三角形だという事もわかるかもしれません。塩むすび、まだ完全に抽象にはなっていないようです。

ところで形而上の「而」の字、縦線が本ありますが、ちよつと漫画の記号みたいですね。↓III

下に落ちていく時の漫符のようで面白いです。物を抽象的な存在にしたり、そこから重さだけを残したり？と楽しくて不思議な句です。味はまだあるのかちよつとたべてみましたすね(森砂季)

「わたしはね、ペトリコールの方が好き」手のひらとひら宇宙を包む みさきゆう

〜雨が降ったときの匂いを「ペトリコール」と言うとは知らなかった。ディールアスの組曲「丘を越えて遙かに」を聴きたくなった(月波与生)

同じもの食べる秘密をつくる日に 東ころ

〜(よいにおいふたりで嘘をついたとき 久保田紺)を思い出す。恋人と友達の違いは二人だけの秘密(嘘)を持てるかどうかなんだとわかる。ふたりだけの秘密ありま

すか？ (月波与生)

ナイターに背を向けながら帰路につく 水の眠り

　　ゝわたしが読んだ季語「ナイター」の句で、いちばん感銘をうけました。野球が嫌いなわけではない、しかしすごく好きというわけでもない。野球に興味がなくても「ナイター」の喧騒にはなぜか惹かれるものがある。路地裏の家からの中継の音だろうか、それとも帰路に球場があるのだろうか。(蔭一郎)

対岸と時差があるのね、百日紅 上崎

　　ゝ上崎さん、記号も手出しはじめはったな。。。(西脇祥貴)

さあ、夢と現実どちらで先に会えるでしょうか 羊が一匹しるとも

　　ゝ「羊が一匹」で「そこから始めんのかい！」と突っ込んでしまった。人は眠れない夜はみな羊を数えるのだろうか？などと考える眠れない夜。(月波与生)

夏の夜影しか知らぬ人と会う かしくらゆう

　　ゝ「影しか知らぬ人」と言い回しに情を感じる。ほとんどの人は「影すら知らぬ人」だから。また「夏のゝ」が怪談であることを暗示させてもいる。(月波与生)

信じてるふりって大事かろうじて紡いだ糸を切らないように みさきゆう

　　ゝこの歌すごく好きです！ (Kaorin)

赤信号ブレーキランプ降車ボタン赤い光に囲まれる帰路  
何となく短歌

　　ゝ映像的な瞬間をうまく切り取っている。「赤い光」は先



行きの安堵感なのか不安感なのか、読み手の体験を想起させることで映像は広がりを持った。(月波与生)

おっぱいの中に住んでる油蟬　しまねこくん

「オツパイの裏は揚羽の休憩所　坂本勝子」の披講を聞いてびっくりしたことを思い出す。夏はおっぱいに昆虫を隠すには適した季節なのか。さぞかし鬱陶しいことだろう。(月波与生)

幸せでなくてもいいよ、探すのも疲れるでしょう？ご飯は食べた？　みさきゆう

「個人的に、ガシツと心臓を掴まれました。ありがとうございました。(「ちよめ」)

踏切の赤と鼻緒の疼くとき　みさきゆう

「ださいすき(相馬絵梨子)